### 記入例(1) 鉄筋コンクリート造 4階建て共同住宅(耐震等級 1)

#### 〇建物概要

建設地 東京都港区

規模等 ・建物高さ 11.94m

・階数 地上 4階 ・延べ面積 3,049.55m<sup>2</sup>

住戸数 35戸

**構造等** ・鉄筋コンクリート造

X方向 ラーメン構造

・Y方向 耐力壁付ラーメン構造

・基礎 杭基礎 (既製コンクリート杭)

#### 〇構造計算の手法

・ X方向 保有水平耐力計算 (ルート3)

Y方向 その他 (ルート1)

#### 〇性能表示事項

1-1 耐震等級(倒壊等) 等級 1

1-2 耐震等級(損傷) 等級 1

1-3 その他(免震構造) その他の構造

1-4 耐風等級等級 21-5 耐積雪等級区域外3-1 劣化対策等級等級 3

						, ILO 0   1-1	
設計内容	就明書 (兼自己評価書		案件略称: <mark>□ 虎ノ門マンション</mark>				
	の安定に関すること						
	耐震等級(構造躯体の倒壊等防」	<del>_</del> ,		]			
1-2 i	耐震等級(構造躯体の損傷防止)	) 評価7	5法:■評価方法基準による □ その他 [	]	2. 申請者記入特記事項·備考析	は、建設部	平価に伝えるための特記欄
1-3	その他(地震に対する構造躯体の倒り	懐等防止及び損傷防止) 評価7	5法:■ 評価方法基準による □ その他 [	]	3. 概要書·計算書、図面番号	、関連設計	
1-4 i	耐風等級(構造躯体の倒壊等防」	止及び損傷防止) 評価が	5法: <mark>■</mark> 評価方法基準による <mark>□</mark> その他 [	]	ための注記欄で、いずれ	か一つの語	記入のみで可。
1-5 i	耐積雪等級(構造躯体の倒壊等	防止及び損傷防止) 評価が	5法:■ 評価方法基準による □ その他 [	]	4. 同一敷地内に複数の棟が存	する場合、	、類似内容であれば
(1)構造設	計概要				本書類は一つとし、違いに	は記号等を	用いて区別する。
					R入 概要書·計算書		評価者記入欄
	確認事項		設計内容説明欄 兼チェック欄			確	備考
構造概要	規模等	・建物高さ [ ≒11.9	m ]			D	
H3/EI/MQ	7012 3	<ul><li>・延べ面積 [ =3,049</li></ul>		r res			
	耐震、免震等						
	構造等		大造	1	—— 構造計算概要書 P.1		
	11322 3	・構造形式 Xまたは桁行方向		<u>メン構造</u> ]			
		Yまたは張間方向	-	1			
		<ul> <li>基礎構造 [</li></ul>		1			
構造計算	構造計算の手法	□ 時刻歴応答解析		-			
		■ 保有水平耐力計算·····A棟:	X方向 B棟:Y方向				
	ルート2は許容応力度等計算	□ 限界耐力計算	要) (				
		□ 告示免震計算			構造計算概要書 P.2~4		
	ルート1はその他	□ 許容応力度等計算	採用方向を配入する				
	ルートロなその他	■ その他 [ <mark>令第82条各</mark>	B及び令第82条の4に定めるところによる構造計算	]			
	構造計算の考え方	・構造計算に際し採用したモデル	化、解析手法、ルート判定等に関する、設計者の考	え方			
材料仕様	コンクリート	・強度 [Fc27		]			
(最大のもの)	鉄筋	• 主筋材質 [ SD345	] 主筋径 [ <mark>D25</mark>	]	=孙=上网 C 1		
	鉄骨	<ul><li>鉄骨材質 [</li></ul>	] ボルト材質 [	]	改計区 5-1		
	その他	[		]			
(2)適用対	象の確認						
							評価者記入欄
	確認事項		設計内容説明欄 兼チェック欄			確	備考
高さ等		■ 31m以下 □ 31m超~45	m以下 □ 45m超~60m以下 □ 60m超	II C BIN			
		■ 建築基準法第20条第三号イ(	ルート1)······A棟:Y方向 B棟:X方向		構造計昇概要書 P.1~4		
構造認定等		□ 建築基準法第20条第一号(超	高層建築物の構造方法)				
注) 構造②のシ	ートについて	□ 認定書 □ 性能評価書	<b>」</b> 評価報告書	当する場合は方向			
<ul><li>右の項のいづれ</li></ul>	れかに該当する場合には、	□ 建築基準法第20条第二号□、	同第三号ロ、同第四号ロ(特殊の構造方法) 等	上記入する			
構造②-A を使	用し、認定書や確認済	□ 認定書 □ 性能評価書	<mark>一</mark> 評価報告書				
証等を添付する			]				
<ul><li>右の項のいづさ</li></ul>	れにも該当しない場合	□ 評定書 □ 評価報告書					
保有耐力許容応	力度計算の場合:構造②-B1~B3	□ 品確法第58条(耐震等級、耐	風等級、耐積雪等級に関する特別評価方法認定)				
限界耐力計算の	場合 : 構造②-C1~C3	口 特別評価方法認定書	二 試験結果証明書	左欄の注)により構造②-/	AO 📗		
告示免震計算の対	場合 : 構造②-D1~D5	■ 建築基準法に基づく、耐震等	吸1の場合又は告示免震計算による場合	みに記入し、構造③へ進む	3		
を使用する。		■確認済証			<u> </u>		
材料認定等		□ 建築基準法第37条第2号(建	築材料認定)				
該当する認知	定書などを添付する	□ コンクリート □ 認定書	□ 性能評価書 □ 評価報告書				

□ その他 [

□ 認定書 □ 性能評価書 □ 評価報告書

### 設計内容説明書(兼自己評価書) 案件略称: 口 虎ノ門マンション

- 1. 構造の安定に関すること(2) (建築確認済みで等級1などの場合)
- (3) 等級の確認(建築確認済みで等級1などの場合)

性能表示事項	自己評価等級		設計内容説明欄 兼チェック欄	申請者記入 特記事項 ·備考欄	概要書·計算書 図面番号 関連設計図書	評価者記入欄 備 考
1-1 耐震等級	□ 等級3	適用倍率	□ 倍率 1.5 以上			
(構造躯体の倒壊等防止)	□ 等級2		□ 倍率 1.25 以上		構造計算概要書 P.8	
□ 評価対象外(免震建築物)	■ 等級1		■ 倍率 1.0 以上			
1-2 耐震等級	□ 等級3	適用倍率	□ 倍率 1.5 以上			
(構造躯体の損傷防止)	□ 等級2		□ 倍率 1.25 以上		構造計算概要書 P.8	
□ 評価対象外(免震建築物)	■ 等級1		■ 倍率 1.0 以上			
1-3 その他	□ 免震建築物	免震建築物の場合	□ 平成12年建設省告示第2009号第1第3号			
(地震に対する構造躯体の倒壊等防止	■ その他	の告示	□ 一 (四号建築物)			
及び損傷防止)			□ 二(建基法20条第二号又は三号に掲げる建築物)		構造計算概要書 P.1	
			□ 三(時刻暦応答解析を行い大臣認定取得)			
			□ その他[ ]			
		維持管理	□ 維持管理計画			]
			□ 敷地管理計画			
1-4 耐風等級	■ 等級2	適用倍率	■ 倍率 1.2 以 <del>上</del>			
(構造躯体の倒壊等防止及び損傷防止)	□ 等級1		□ 倍率 1.0 以上 風荷重を1.2倍して計算 (風荷重:ルート3以外に		at A 異国のカ) 加計算書 P.1	
			(m)	S-1267 C-171C-76-1	. 5 - Oak (2007)	
1-5 耐積雪等級	□ 等級2	適用倍率	□ 倍率 1.2 以上 ]			
(構造躯体の倒壊等防止及び損傷防止)	□ 等級 1		□ 倍率 1.0 以上 多雪区域のみに	適用	構造計算概要書 P.8	
	■区域外		■ 多雪区域外			

注)「1-2耐震等級」「1-4耐風等級」「1-5耐積雪等級」の評価項目を選択しない場合は、申請者記入特記事項欄に「選択無し」と記入願います。

### 設計内容説明書(兼自己評価書)

案件略称: □ 虎ノ門マンション

1. 構造の安定に関すること(3)(地盤・基礎)

1-6 地盤又は杭の許容支持力等及びその設定方法 評価方法 ■ 評価方法基準による □ その他 [ 1-7 基礎の構造方法及び形式等 評価方法 ■ 評価方法基準による □ その他 [

		申請者記入   概要書・計算書		評価者記入欄
	性能表示事項	設計内容説明欄 兼チェック欄 特記事項 図面番号 ・ 備考欄 関連設計図書	確認	備考
接基礎	構造方法	ロ 鉄筋コンクリート造		
		□ その他 [		
	形式	□ 独立基礎		
		□ 布基礎		
	追加記入です	□ ベタ基礎		
		□ その他 [		
	地盤の許容応力度	[		
杭状改良地盤基礎	杭状改良地盤の許容支持力度	[ KN/m²		
	杭状改良地盤の許容支持力	[ KN/本		
	地盤改良方法	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		
基礎	杭種	支持方法 [ 支持層はGL-20m以深の砂礫層		
		杭種 [支持杭(既製杭)		
_		工法 [プレボーリング拡大根固め工法 ]		
	杭径(最小~最大)	最小径 [ 40 ] cm ~ 最大径 [ 50 ] cm		
	場所打杭、深礎は拡底径~拡頭径も表示	最小拡頭径 [ ] cm ~ 最大拡頭径 [ ] cm ~ B / k + 7 [ ] cm ~ B		
1種類の場	拡底径は設計径を表示	最小拡底径 [ ] cm ~ 最大拡底径 [ ] cm   既製杭で、上杭・下杭で径が異なる場合   などは、最も長い部分の軸部の径を配入		
合は最小	杭長(最小〜最大)小数点以下切捨て	20 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
のみ記入		最大長		
		最大		
		版大		
	った地盤調査方法、地盤改良の方法等)	□ PS検層 □ 孔内水平載荷試験		
はない アスプログラス	プに心血吸色/J/A、心面以及の/J/A寸/	日から		
	2020年4月以降は「PS検R			
	<b>験」に■を記入しないで下</b> に	ši)	ll l	

# 設計内容説明書(兼自己評価書) 案件略称: ロ 虎ノ門マンション

JASS5とは別の指定方法

JASS5とは別の指定方法

・湿潤養生の方法 ・養生期間 ・養生温度の配慮

■ 養生方法の指定

# 3. 劣化の軽減に関すること(1)(住棟評価用)

	等級(構造躯体等)						評価方法: <mark>■</mark> 評価方法基準による <mark>ロ</mark> その	他	[ ]
(1)鉄筋コンクリート	<u>、造及び鉄骨鉄筋コン</u>	ノクリート造						n	
性能表示事項 自己評価 等級		設計内容説明	欄 兼チェック	東		申請者記入 特記事項 • 備考欄	概要書·計算書 図面番号 評価関連図書	確認	評価者記入欄 備 考
3-1 ■ 等級3	3 ■ ①項~⑤項の全で	の項目に適合							
劣化対策等級 □ 等級 2	2 □ ①項~⑤項の全で	の項目に適合							
(構造躯体等) □ 等級1	□ ⑤項のみに適合								
①.セメントの種類	■ JISR5210 ポル								
		中庸熱 □ 低熱 □ そのft	_				設計図 S-1		
		ライアッシュセメント:混合物							
( -1.1- ( ) . 1 H. 1.	□ JISR5211 高紫	デセメント:混合物の10分の		1				1	
②水セメント比と		コンクリート	•	普通 軽量	普通 軽量		=n=1 m 0 1		
かぶり厚さ	水セメント比 W/C(%)	等級3 等級2			□ 55 □ 50 □ 60 □ 55	-	設計図 S-1		
	VV/ O (70/	部位			厚さ (cm)				
			屋内	<u>取ががらい</u> 2	3	-			
	直接土に接しない	間万至以外の至又は休	屋外	3 (2)	4 (3)	-			
	部分のかぶり厚さ	耐力壁、柱、はり又は壁ばり	屋内	3	4				
	1000 010 1010 Jac	100万里、日、100万円里100万円	屋外	4 (3)	5 (4)				
		壁、柱、床、はり、基礎ばり							
	直接土に接する	立ち上り部分	) (10 · 1- 11 · 0/2 · )	4	5		設計図 S-3		
	部分のかぶり厚さ	基礎(布基礎の立上り部分を防	<. )	6	7	(2-41-4-1)		7	
		中庸熱・低熱ポルトランドも	2メント	適用可	適用外		t上のある場合とは、「外壁の屋外に面する部位に、 、モルタル塗り、外断熱工法による仕上、その他こ		
			(	( )内の数値は有効	効な仕上のある場合		以上の性能を有する処理が施される場合」である	ا "	
		こより異なる場合、部位とW/C			]		、屋外のスラブ、梁の水平面には適用されない		
		は、最小かぶり厚さに施工誤差		を考慮して設定				-	
		こあたり、設計かぶり厚さを考	意している。				電算P.92~112	4_	
③.コンクリートの品質等	■ JIS規格コンクリ	•	<b></b>	大楽が説	とについては、X・Yにま 対針図で示され、それに	Sける王筋の上ト こ基づいた断而算	関係   '定		
		強度が33N/mm <sup>2</sup> 未満の場合 :		かな	計図で示され、それに されている必要がある	3	設計図 S-3		
		強度が33N/mm <sup>2</sup> 以上の場合:  cmを超える場合は大臣認定=					設計区33		
コンクリート強度は JASS5(2009)のFm	■ 単位水量が18			IJ					
0A333(2008)031111		○6%(日最低気温の平滑平年	値の年間極値が	が○℃を下回る地域	)				
		水率を高くしない措置その他			ĺ				
		<ul><li>・設計基準強度 ・単位</li></ul>			スラソフ゜フロー				
④.施工計画	□ 認定コンクリート	において、等級3、等級2の	場合						
	□ 適切な施工計	画を定める指定							
	□ 適切な品質管理	理計画を定める指定							
		と対処方法を定める指定					JASS5に進柳する場合	には、	対応す
		とめの打込み及び締め固めの方	法の指定				JASS5に準拠する場合 る節番号を図面に記載	する	/
		別め機器の種類と使用方法の状況を決め			-				
	• JASS5とは別	- 10, - 10, -			J				
	■打り継ぎ部の処理	E力法の指定 3 ・打継ぎ部の形状 ・コンク	111 L △+T4W→	(五の加里			設計図 S−3		
I	- ・ 1 株さ部の位置	』・打械を部の形状 ・コンク	ツートの打継さ	はい火地			改計区 3-3		

## 3. 劣化の軽減に関すること(2) 案件略称: <a href="https://www.ncbi.nlm.n

#### (1) 鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造 続き

白己証価	-0 - 1		概要書·計算書	評価者記入欄
性能表示事項 自己評価 等級	設計内容説明欄 兼チェック欄	特記事項 • 備考欄	図面番号 評価関連図書	確認備考
⑤.その他の構造部材等	■ 構造躯体等が令3章耐久性等関係規定のうちの下記の規定に適合			
	・構造部材(令第37条) ・コンクリートの材料(令第72条1,3号)			
	・コンクリートの強度(令第74条3項)			
	・コンクリートの養生(令第75条) ・鉄骨のかぶり厚さ(令第79条の3)			
	□ 特殊な工法によるものは、建設大臣が定めた技術的基準のうちの劣化規定に従う			
	ロ 壁式鉄筋コンクリート造:平13国交告第1026号に適合			
	ロ プレストレストコンクリート造:昭58建告第1320号に適合			
	□ 壁式ラーメン鉄筋コンクリート造:平13国交告第1025号に適合			
	□ その他 [ ]			

#### (2)鉄骨造

	自己評価		申請者記入	概要書·計算書 図面番号 評価関連図書		評価者記入欄		
性能表示事項	等級	設計内容説明欄 兼チェック欄	特記事項 • 備考欄			備考		
3-1	□ 等級3	□ ①項~④項の全ての項目に適合、但し*の項目は除外						
劣化対策等級	□ 等級2	□ ①項~④項の全ての項目に適合、但し**の項目は除外						
(構造躯体等)	□ 等級 1	□ ④項のみに適合						
①.構造躯体		口 柱、梁、筋かいの防錆措置は評価方法基準 3-1(3)口①a の基準に適合**						
		口 柱、梁、筋かいの防錆措置は評価方法基準 3-1(3)口②a の基準に適合*						
		口柱、梁、筋かい以外の部分は鉛系さび止めペイント塗り回数2以上、又は同等の防錆措置						
		ただし、等級3の場合は厚さ12mm(等級2の場合は厚さ9mm)以上の鋼材については、 この限りでない						
②.床下		口 床下は評価方法基準 3-1(3)イ①f の基準に適合						
③.小屋裏		□ 小屋裏は評価方法基準 3-1(3)イ①g の基準に適合						
④.構造部材等		□ 構造躯体等が構造部材の耐久(令第37条)に適合						
		□ 構造方法に関する補足:特殊な工法によるものは、国土交通大臣が定めた技術的基準のうちの						
		劣化規定に従う						

# 記入例(2) 鉄筋コンクリート造 7階建て共同住宅(耐震等級 2)

#### 〇建物概要

建設地 北海道札幌市

規模等 ・建物高さ 21.37m

・階数 地上 7階

・延べ面積 2,809.92m<sup>2</sup>

• 住戸数 31戸

**構造等** ・鉄筋コンクリート造

X方向 ラーメン構造

・Y方向 耐力壁付ラーメン構造

・基礎 直接基礎 (ベタ基礎) 一部杭状改良地盤

#### 〇構造計算の手法

・X方向 保有水平耐力計算(ルート3)・Y方向 保有水平耐力計算(ルート3)

#### 〇性能表示事項

1-1 耐震等級(倒壊等) 等級 2 1-2 耐震等級(損傷) 等級2

1-3 その他(免震構造) その他の構造

1-4 耐風等級等級 21-5 耐積雪等級等級 23-1 劣化対策等級等級 3

				UI	HEC都中	活住評価センター		
設計内容	系説明書 (兼自己評価書	) <b>案件略称:<mark>O 虎ノ門マンション</mark></b>						
1-1 1-2 1-3 1-4	の安定に関すること 耐震等級 (構造躯体の倒壊等防力 耐震等級 (構造躯体の損傷防止) その他 (地震に対する構造躯体の倒壊 耐風等級 (構造躯体の倒壊等防力 耐積雪等級 (構造躯体の倒壊等防力 耐積雪等級 (構造躯体の倒壊等防力	上)	] ] ] ] ]	注1. 申請者は 部 チェック欄: 口は、該当部 2. 申請者記入特記事項・備考欄 3. 概要書・計算書、図面番号、 ための注記欄で、いずれ; 4. 同一敷地内に複数の棟が存 本書類は一つとし、違いは 概要書・計算書	分のみを は、建設 関連設語 か一つの する場合	評価に伝えるための特記権 計図書欄は、設計評価の 記入のみで可。 、類似内容であれば		
	確認事項	設計内容説明欄 兼チェック欄	特記事項 ·備考欄	図面番号 関連設計図書	確認	備考		
構造概要	規模等 耐震、免震等 構造等	<ul> <li>・建物高さ [ = 21 m ] 階数:地上 [ 7 階] 地下 [ 階]</li> <li>・延へ面積 [ = 2,809 m²]</li> <li>■ 耐震建築物 □ 耐震建築物以外(免震建築物等)</li> <li>・構造種別 [ 鉄筋コンクリート造 ]</li> <li>・構造形式 ※または桁行方向 [ 純ラーメン構造 ]</li> <li>・基礎構造 [ 直接基礎 ]</li> </ul>		- - 構造計算概要書 P.1				
構造計算	構造計算の手法構造計算の考え方	□ 時刻歴応答解析 ■ 保有水平耐力計算 □ 限界耐力計算 □ 時示免襲計算 □ 許容応力度等計算 □ 子の他 [ 令第82条各号及び令第82条の4に定めるところによる構造計算 ■ ・構造計算に際し採用したモデル化、解析手法、ルート判定等に関する、設計者の考え方		構造計算概要書 P.2~4				
材料仕様 (最大のもの)	コンクリート 鉄筋 鉄骨 その他	<td <="" colspan="2" style="block" td=""><td></td><td>設計図 S-1</td><td></td><td></td></td>	<td></td> <td>設計図 S-1</td> <td></td> <td></td>			設計図 S-1		
(2)適用対		Land and the second sec			II I			
	確認事項	設計内容説明欄 兼チェック欄	申請者記入 特記事項 ·備考欄	概要書·計算書 図面番号 関連設計図書	確認	評価者記入欄 備 考		
等と高		■ 31m以下 □ 31m超~45m以下 □ 45m超~60m以下 □ 60m超 □ 建築基準法第20条第三号イ(ルート1)		構造計算概要書 P.1				
構造②-A を使 証等を添付する ・右の項のいづ	れかに該当する場合には、 使用し、認定書や確認済 れにも該当しない場合 力度計算の場合:構造②-B1~B3	□ 建築基準法第20条第一号(超高層建築物の構造方法) □ 認定書 □ 性能評価書 □ 評価報告書 □ 建築基準法第20条第二号□、同第三号□、同第四号□(特殊の構造方法) □ 認定書 □ 性能評価書 □ 評価報告書 □ □ □ 評定書 □ 評価報告書 □ 品確法第58条(耐震等級、耐風等級、耐積雪等級に関する特別評価方法認定) □ 特別評価方法認定書 □ 試験結果証明書						

: 構造②-D1~D5 □ 建築基準法に基づく、耐震等級1の場合又は告示免震計算による場合

□ コンクリート □ 認定書 □ 性能評価書 □ 評価報告書 [ <mark>高強度せん断補強筋 KSS785</mark>

■ 認定書 □ 性能評価書 □ 評価報告書

■ 建築基準法第37条第2号(建築材料認定)

□ 確認済証

■ その他

告示免震計算の場合

該当する認定書などを添付する

を使用する。

材料認定等

### 設計内容説明書(兼自己評価書) 案件略称: 〇 虎ノ門マンション

- 1. 構造の安定に関すること(2) (保有水平耐力又は許容応力度計算)
- (3) 等級の確認(保有水平耐力又は許容応力度計算)

				申請者記入	概要書·計算書		評価者記入欄
性能表示事項	自己評価等級	確認事項	設計内容説明欄 兼チェック欄	特記事項 ·備考欄	図面番号 関連設計図書	確認	備考
1-1	□ 等級3	適用倍率	□ 倍率1.5 以上				
耐震等級	■ 等級2		■ 倍率1.25以上		LP出力 P137		
(構造躯体の	□ 等級1		□ 倍率1.0 以上				
倒壊等防止)		①.各構造種別共通	■保有水平耐力の確認				
□ 評価対象外	(免震建築物)	計算ルート3	・地震力もしくは必要保有水平耐力に適用倍率を乗じた上で、				
			全層について保有水平耐力Qu≧必要保有水平耐力Qunを満足		LP出力 P137		
		(保有水平耐力)	・全層についてのQuが材料強度に応じて適切に設定されている				
		(必要保有水平耐力)	・全層についてQunが適切に計算されている				
		②.鉄筋コンクリート造	壁量、柱量の確保の確認と応力度の確認				
		計算ルート2-1	□ 強度型(1) Σ2.5 α Aw + Σ.7 α Ac≥ 0.75ZWAi x 適用倍率				
		計算ルート2-2	□ 強度型(2)Σ1.8αAw + Σ1.8αAc ≧ ZWAi x 適用倍率				
		計算ルート2-3	口 靱性型:等級2以上への適合判定には利用しない				
		計算ルート1	$\square$ 強度型 $\Sigma 2.5 \alpha$ Aw + $\Sigma .7 \alpha$ Ac $\ge ZWAi \times $ 適用倍率				
			□ 地震力に適用倍率を乗じた上で全ての部材の存在応力度≦許容応力度				
		③.鉄骨鉄筋コンクリート造	壁量、柱量の確保の確認と応力度の確認				
		計算ルート2-1	□ 強度型(1) Σ2.5 α Aw + Σ1.0 α Ac ≥ 0.75ZWAi x 適用倍率				
		計算ルート2-2	□ 強度型(2) Σ2.0αAw + Σ2.0αAc ≥ ZWAi x 適用倍率				
		計算ルート2-3	□ 靱性型:等級2以上への適合判定には利用しない				
		計算ルート1	□ 強度型 Σ2.5αAw + Σ1.0αAc ≧ ZWAi x 適用倍率				
			□ 地震力に適用倍率を乗じた上で全ての部材の存在応力度≦許容応力度				
		④.鉄骨造	□ 適用倍率とβ'による応力割増の上で全ての部材の存在応力度≦許容応力度				
		計算ルート2	・柱及び梁の仕口部、継手部を保有耐力接合としている				
			・梁は保有耐力横補剛としている				
			・筋かいの端部・接合部の破断防止が適切に設定されている				
			・柱脚部の破断防止 が適切に設定されている				
		計算ルート1	□ 下記の応力割増しの上で全ての部材の存在応力度≦許容応力度				
			・標準せん断力係数 Coが O.4 x 適用倍率以上、				
			また、水平力を負担する筋かいを有する階にあっては 0.5 x 適用倍率以上				
			・2等級以上の場合、偏心率、剛性率の値がそれぞれ0.15以下、0.6以上になっている。				
			・筋かいの端部・接合部の破断防止が適切に設定されている				
1-2	□ 等級3	適用倍率	□ 倍率1.5 以上				
耐震等級	■ 等級2		■ 倍率1.25以上		一貫出力 P32		
(構造躯体の	□ 等級1		□ 倍率1.0 以上				
損傷防止)		構造の安定の確認	■ 地震力もしくは存在応力度に適用倍率を乗じた上で、		一貫出力 P32	1	
(地上、地下およ	こび		全ての部材(主要構造部として杭・地盤を含む)の存在応力度≤許容応力度		GP出力 P34		
基礎、杭も評価	対象)	層間変形角	■ 地震力に適用倍率を乗じた上で各階層間変形角≤1/200		₩ ± D05		
□ 評価対象外	(免震建築物)		または ≦1/ [ 120までの間で緩和値を規定)		一貫出力 P95		
		剛性率Rs:ルート1は計算不要	■ 全層・全方向について剛性率Rs ≥ 0.6以上となっている		₩ ± D05		
		但し、鉄骨造で等級2以上は必要	但し、ルート3はRs<0.6でも可		一貫出力 P95		
		偏心率Re:ルート1は計算不要	■ 全層・全方向について偏心率Re≦0.15となっている		無中 bos		
		但し、鉄骨造で等級2以上は必要	但し、ルート3はRe>0.15でも可		一貫出力 P96		
-			•				

#### (3) 等級の確認(保有水平耐力又は許容応力度計算)続き

性能表示事項 自己評価等級	確認事項	設計内容説明欄 兼チェック欄	申請者記入 特記事項 ·備考欄	概要書·計算書 図面番号 関連設計図書	評価者記入欄確 備 考
1-3 その他 (地震に対する		耐風等級2の場合は風荷重を1.2倍としてチェック			
1-4 耐風等級 (構造躯体の倒壊等 防止及び損傷防止)	適用倍率等	<ul><li>■ 倍率1.2以上</li><li>□ 倍率1.0以上</li><li>□ 風圧力もしくは存在応力度に適用倍率を乗じた上で、 全ての部材の存在応力度≦許容応力度</li></ul>		住宅性能評価検討書 I-4	
1-5 ■ 等級2 耐積雪等級 □ 等級1 (構造躯体の倒壊等 □ 区域外 防止及び損傷防止)	適用倍率等	■ 倍率 1.2 以上 □ 倍率 1.0以上 □ 多雪区域外 □ 積雪荷重もしくは存在応力度に適用倍率を乗じた上で、全ての部材の存在応力度≦許容応力度		住宅性能評価検討書 I-5	

#### 注)「1-2耐震等級」「1-4耐風等級」「1-5耐積雪等級」の評価項目を選択しない場合は、申請者記入特記事項欄に「選択無し」と記入願います。

#### (4) その他の確認事項(保有水平耐力又は許容応力度計算)

確認事項		設計内容説明欄 兼チェック欄	申請者記入 特記事項	概要書·計算書 図面番号	確	評価者記入欄 備 考
積雪時を除く常時荷重に関する	る許容応力度計算	■ 全ての部材の存在応力度≦許容応力度	·備考欄	関連設計図書 一貫出力 P98 GP出力 P34	回	)H) '5
   仕様規定		■ 法令の仕様規定に適合している。		GF曲刀 F34		
II 18KATAE	第2節 構造部材等	・構造部材の耐久(令第37条)・基礎(令第38条)			-	
	第6節 鉄筋コンクリート造	・コンクリートの材料(令第72条)・強度(令第74条)・養生(令第75条)				
	第6節 数励コンプラード追	<ul> <li>鉄筋の継手及び定着(令第73条)・かぶり厚さ(令第79条)</li> </ul>				
				S-2~8		
		<ul><li>・柱(令第77条)・床版(令第77条の2)・はり(令第78条)の構造</li></ul>				
	AT OFFICE OF ER OF FITTING I LIVE	・耐力壁(令第78条の2)・型わく及び支柱の除去(令第76条)				
	第6節2 鉄骨鉄筋コンクリート造	<ul><li>鉄骨のかぶり厚さ(令第79条の3)</li></ul>				
	第5節 鉄骨造	<ul><li>・材料(令第64条)・圧縮材の有効細長比(令第65条)</li></ul>				
		・柱の脚部(令第66条)・接合(令第67条)				
		・高力ボルト及びボルト(令第68条)・斜材・壁等の配置(令第69条)				
荷重及び外力		■ 荷重及び外力の種類と大きさ及び組合せが法令に適合している。				
	種類と大きさ	・固定荷重(令第84条) ・ 積雪荷重(令第86条)				
		<ul><li>・積載荷重(令第85条)</li><li>・風圧力 (令第87条)</li></ul>				
		・ 地震力 ( 令第88条 )				
	荷重及び外力の組合せ	■ 長期及び短期(令第82条)				
		□ 極めて稀に発生する大規模な暴風および積雪(令第82条の5)				
許容応力度及び材料強度	•	■ 許容応力度及び材料強度が法令に適合している。				
	許容応力度	<ul><li>・コンクリート(令第91条)</li><li>・溶接(令第92条)</li></ul>				
		<ul><li>鉄筋(令第90条第2号)</li><li>高力ボルト接合(令第92条の2)</li></ul>				
		<ul><li>・鋼材(令第90条第1号)</li><li>・地盤及び基礎杭(令第93条)</li></ul>				
	材料強度	<ul><li>・コンクリート(令第97条)</li><li>・鋼材(令第96条第1号)</li></ul>				
		<ul><li>鉄筋(令第96条第2号)</li><li>溶接(令第98条)</li></ul>				

#### (4) その他の確認事項(保有水平耐力又は許容応力度計算)続き

確認事項	設計内容説明欄 兼チェック欄	申請者記入 特記事項 ·備考欄	概要書 計算書 図面番号 関連設計図書	確認	評価者記入欄 備 考
計算と設計図の整合	■計算の内容を設計図に反映している。				
	・構造要素の配置、構造部材の基準強度、接合方法など				
認定構造方法等	<ul><li>■ 認定書等で確認するか、設計図に明示している。</li><li>・構造方法、建築材料など</li></ul>		S-2		
構造計算ソフト	□ 認定ソフトを使用している。(認定書要添付) ・ワーニングメッセージの説明・電算チェックリストの添付・記号の説明		最終頁 P6−1		

### 設計内容説明書(兼自己評価書)

案件略称: O 虎ノ門マンション

【構造③】

1. 構造の安定に関すること(3)(地盤・基礎)

1-6 地盤又は杭の許容支持力等及びその設定方法

評価方法 ■ 評価方法基準による □ その他 [

1-7 基礎の構造方法及び形式等

評価方法 ■ 評価方法基準による □ その他 [

(6)(7)基礎の構	造方法及び形式等 / 地盤又は杭の許容	でである。		
	性能表示事項	申請者記入 概要書·計算書 設計内容説明欄 兼チェック欄 特記事項 図面番号 ・備考欄 関連設計図書	確認	評価者記入欄 備 考
直接基礎	構造方法	■ 鉄筋コンクリート造		
	形式	□ その他 [	1	
	追加記入です	□ 布基礎 ■ ベタ基礎		
	地盤の許容応力度	□ その他 [ <b>の許容応力度を記入する</b> ] [ <b>30</b> ] KN/㎡ <b>許容支持力度、許容支持力</b>		
杭状改良地盤基礎	杭状改良地盤の許容支持力度 杭状改良地盤の許容支持力	「 30 」 KN/m のいずれかを記入する		
	地盤改良方法	[深層混合処理工法 深層混合処理工法、浅層混合処理工法		
杭基礎	杭種	支持方法 [     特と配入する       杭種 [     丁法 [		
	杭径(最小~最大) 場所打杭、深礎は拡底径~拡頭径も表示 拡底径は設計径を表示	最小径 [ ] cm ~ 最大径 [ ] cm 最小拡頭径 [ ] cm ~ 最大拡頭径 [ ] cm 最小拡原径 [ ] cm ~ 最大拡底径 [ ] cm	-	
	杭長(最小~最大)小数点以下切捨て	最小長 [ ] m 最大長 [ ] m		
	杭の許容支持力(最小〜最大)	最小 [ ] KN/本 最大 [ ] KN/本		
20	った地盤調査方法、地盤改良の方法等) 020年4月以降は「PS検層」、「孔内水平載荷試 と」に置を記入しないで下さい	■ 標準貫入試験 □ 平板載荷試験 ■ 室内土質試験 □ 別内水平載荷試験 □ 別内水平載荷試験 □ 別内水平載荷試験 □ 別内水平載荷試験 □ 別に記入し、 □ 【構造③】に記入し、 □ 「		

評価方法: ■ 評価方法基準による □ その他 [

### 設計内容説明書 (兼自己評価書)

案件略称: O 虎ノ門マンション

# 3. 劣化の軽減に関すること(1) (住棟評価用)

3-1 劣化対策等級(構造躯体等)

性能表示事項	自己評価		10.10.10.10.10.10.10.10.10.10.10.10.10.1	欄 兼チェック	· 经自		申請者記入 特記事項	概要書·計算書 図面番号		評価者記入欄
工化农小争块	等級		الاست الاستان الم	11刺 ボノエジン1	[現]		• 備考欄	評価関連図書	確認	備考
3-1	■ 等級3	■ ①項~⑤項の全で	の項目に適合							
劣化対策等級	□ 等級2	□ ①項~⑤項の全で	の項目に適合							
(構造躯体等)	□ 等級1	<ul><li>□ ⑤項のみに適合</li></ul>								
①.セメントの種類	Į	■ JISR5210 ポル								
			中庸熱 <mark>□</mark> 低熱 <mark>□</mark> その他					設計図 S-1		
			ライアッシュセメント:混合物を							
		□ JISR5211 高加	グセメント:混合物の10分の3	を除いた部分を						
②.水セメント比と	-		コンクリート		普通 軽量	普通 軽量	_	-0-1		
かぶり厚さ		水セメント比 W/C(%)	等級3		<b>■</b> 50 □ 45			設計図 S-1		
		VV/C(%)	等級2			60 0 55				
			部位		最小かぶり原		-			
		+++ 1	耐力壁以外の壁又は床	屋内	2	3	-			
		直接土に接しない	전 + P# + + 나 O T 나 P* - * * * * * * * * * * * * * * * * *	屋外 	3 (2)	4 (3)				
		部分のかぶり厚さ	耐力壁、柱、はり又は壁ばり		3	4				
		古拉士に拉する	RE 12 C 12 C 17 THE 12 C 12	屋外	4 (3)	5 (4) 5		設計図 S-3		
		直接土に接する	壁、柱、床、はり、基礎ばり又は布		6	7		設計凶 5-3		
		部分のかぶり厚さ	基礎(布基礎の立上り部分を除		適用可		有効な仕」	とのある場合とは、「外壁の屋外に面する部位!	こ、タイ	)
			中庸熱・低熱ポルトランドセ	メント			ル張り、モ	ルタル塗り、外断熱工法による仕上、その他こ		1
		( )内の数値は有効な仕上のある場合 ( )内の数値は有効な仕上のある場合						生能を有する処理が施される場合」である		
		□ 設計かぶり厚さは、最小かぶり厚さに施工誤差(原則1cm)を考慮して設定						<b>屋外のスラブ、梁の水平面には適用されない</b>		)
		■ 設計かいり厚さは、最かかいり厚さに地工誤差(原則1cm)を考慮して設定 ■ 部材の断面算定にあたり、設計かぶり厚さを考慮している。						電算P.92~112	$\equiv$	
③.コンクリートの	口压学			(UCVIS)				电升下.52. 112		
(a). 1 2 2 7 7 7 1 1 0 1	加貝守	■ JIS規格コンクリート  ■ コンクリート強度が33N/mm <sup>2</sup> 未満の場合 スランプが18cm以下  ■ コンクリート強度が33N/mm <sup>2</sup> 以上の場合 スランプが21cm以下  なされている必要がある								
								が 設計図 S-3		
			強度が33N/IIIII 以上の場合 ス Icmを超える場合は大臣認定コ)			C0.085-354.00.0		放計區 6 0		
コンクリー	ート強度は 2009)のFm	■ 単位水量が18		)						
JASS9(2	2009) 07Fm		35Kg/III 以下 ~6% (日最低気温の平滑平年(I	直の年間極値が						
			水率を高くしない措置その他有			1				
		□ 認定コンクリート			• 75′/プ あろいは75′	ר <sub>"בר "</sub> רר				
				` <u> </u>	7777 UJ QV 110X77	,, ,,				
④施工計画		□ 認定コンクリート	- -において、等級3、等級2の場	i合						
©.00±01=		□適切な施工計								
			理計画を定める指定							
			と対処方法を定める指定						<u> </u>	114.10
			めの打込み及び締め固めの方法	:の指定				JASS5に準拠する場 る節番号を図面に記		、对心す
		<ul><li>使用する締め固</li></ul>	固め機器の種類と使用方法			の利用うと四回に記	44.7 0			
		・以内する神の回め機能の種類と使用方法 ・JASS5とは別の指定方法  「								
			型方法の指定							
		・打継ぎ部の位置	5 ・打継ぎ部の形状 ・コンクリ	リートの打継ぎ	面の処置		設計図 S-3			
		<ul><li>JASS5とは別</li></ul>				]				
		■ 養生方法の指定	-			-				
			よ ・養生期間 ・養生温度の配慮							
1		<ul><li>JASS5とは別</li></ul>						1		

### 3. 劣化の軽減に関すること(2) 案件略称: O 虎ノ門マンション

#### (1)鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造 続き

性能表示事項 自己評価 等級	設計内容説明欄 兼チェック欄	申請者記入 特記事項 • 備考欄	概要書·計算書 図面番号 評価関連図書	評価者記入欄確認 備考
⑤.その他の構造部材等	■ 構造躯体等が令3章耐久性等関係規定のうちの下記の規定に適合 ・構造部材(令第37条)・コンクリートの材料(令第72条1,3号) ・コンクリートの強度(令第74条3項) ・コンクリートの養生(令第75条)・鉄骨のかぶり厚さ(令第79条の3) □ 特殊な工法によるものは、建設大臣が定めた技術的基準のうちの劣化規定に従う			
	□ 壁式鉄筋コンクリート造: 平13国交告第1026号に適合 □ プレストレストコンクリート造: 昭58建告第1320号に適合 □ 壁式ラーメン鉄筋コンクリート造: 平13国交告第1025号に適合 □ その他[			

#### (2)鉄骨造

性能表示事項	自己評価 等級	設計内容説明欄 兼チェック欄	申請者記入 特記事項 • 備考欄	概要書·計算書 図面番号 評価関連図書	評価者記入欄 備 考 る
3-1	□ 等級3	□ ①項~④項の全ての項目に適合、但し*の項目は除外			
劣化対策等級	□ 等級2	□ ①項~④項の全ての項目に適合、但し**の項目は除外			
(構造躯体等)	□ 等級1	□ ④項のみに適合			
①.構造躯体		<ul> <li>□ 柱、梁、筋かいの防錆措置は評価方法基準 3-1(3)□①a の基準に適合**</li> <li>□ 柱、梁、筋かいの防錆措置は評価方法基準 3-1(3)□②a の基準に適合*</li> <li>□ 柱、梁、筋かい以外の部分は鉛系さび止めペイント塗り回数2以上、又は同等の防錆措置ただし、等級3の場合は厚さ12mm(等級2の場合は厚さ9mm)以上の鋼材については、この限りでない</li> </ul>			
②.床下		□ 床下は評価方法基準 3-1(3)イ①f の基準に適合			
③.小屋裏		□ 小屋裏は評価方法基準 3-1(3)イ①g の基準に適合			
④.構造部材等	<ul><li>① 構造躯体等が構造部材の耐久(令第37条)に適合</li><li>□ 構造方法に関する補足:特殊な工法によるものは、国土交通大臣が定めた技術的基準のう劣化規定に従う</li><li>□ [</li></ul>				

### 3.1.4 記入例(3) 鉄筋コンクリート造 54階建て共同住宅(超高層建築物)

#### 〇建物概要

建設地 静岡県静岡市

規模等・建物高さ 174.90m

・階数 地上 54階、地下2階、塔屋1階

延べ面積
 81,965,04m<sup>2</sup>

• 住戸数 673戸

**構造等** ・鉄筋コンクリート造

・地上階 純ラーメン構造

・地下階 耐力壁付ラーメン構造

・基礎 杭基礎(場所打ちコンクリート拡底杭)

#### 〇構造計算の手法

• 時刻歷応答解析

#### 〇性能表示事項

1-1 耐震等級(倒壊等) 等級 1 1-2 耐震等級(損傷) 等級 1

1-3 その他(免震構造) その他の構造

1-4 耐風等級等級 21-5 耐積雪等級区域外3-1劣化対策等級等級 3

				UHE	LC都中店	注評価センター
設計内容	説明書 (兼自己評価書	) <b>案件略称:<mark>△ 虎ノ門マンション</mark></b>				
1-1	の安定に関すること 耐震等級(構造躯体の倒壊等防力震等級(構造躯体の損傷防止 その他(地震に対する構造躯体の倒壊等防力) 耐風等級(構造躯体の倒壊等防力) 耐積雪等級(構造躯体の倒壊等防力)	上) 評価方法: ■ 評価方法基準による □ その他 [ 評価方法: ■ 評価方法基準による □ その他 [ 禁価方法: ■ 評価方法基準による □ その他 [ 禁防止及び損傷防止) 評価方法: ■ 評価方法基準による □ その他 [ 上及び損傷防止) 評価方法: ■ 評価方法基準による □ その他 [		チェック欄: 口は、該当部分 2. 申請者記入特記事項·備考欄は 3. 概要書·計算書、図面番号、原 ための注記欄で、いずれか 4. 同一敷地内に複数の棟が存す 本書類は一つとし、違いは記	、建設評 関連設計図 一つの記』 る場合、	とする。 価に伝えるための特記欄 図書欄は、設計評価の 入のみで可。 類似内容であれば いて区別する。
	確認事項	設計内容説明欄 兼チェック欄	申請者記入 特記事項 ·備考欄	概要書·計算書 図面番号 関連設計図書	確認	評価者記入欄 備 考
構造概要	規模等 耐震、免震等 構造等	・建物高さ [ ≒174 m ] 階数:地上 [ 54 階 ] 地下 [ 2 階 ]     ・延べ面積 [ ≒81965 m ]      ■ 耐震建築物 □ 耐震建築物以外(免震建築物き 丸めてよい     ・構造種別 [ 鉄筋コンクリート造		構造計算概要書 P.1		
構造計算	構造計算の手法	■ 時刻歴応答解析 □ 保有水平耐力計算 □ 限界耐力計算 □ 告示免震計算 □ 許容応力度等計算 □ その他 [ 令第82条各号及び令第82条の4に定めるところによる構造計算 ]		構造計算概要書 P.2~4		
材料仕様 (最大のもの)	構造計算の考え方 コンクリート 鉄筋 鉄骨	・構造計算に際し採用したモデル化、解析手法、ルート判定等に関する、設計者の考え方         ・強度       [Fc70       ]         ・主筋材質       [SD490       ] 主筋径       [D41       ]         ・鉄骨材質       [ ポルト材質       [ ]	_	設計図 S−1		
(2)適用対	その他	[ <mark>高強度せん</mark> 断補強筋 KSS785				
	確認事項	設計内容説明欄 兼チェック欄	申請者記入 特記事項 ·備考欄	概要書·計算書 図面番号 関連設計図書	確認	評価者記入欄 備 考
等と高		□ 31m以下 □ 31m超~45m以下 □ 45m超~60m以下 ■ 60m超 □ 建築基準法第20条第三号イ(ルート1)		構造計算概要書 P.1		
構造②-A を使 証等を添付する ・右の項のいづれ	れかに該当する場合には、 用し、認定書や確認済 れにも該当しない場合 力度計算の場合:構造②-B1~B3	■ 建築基準法第20条第一号(超高層建築物の構造方法) ■ 認定書 ■ 性能評価書 □ 評価報告書 □ 建築基準法第20条第二号□、同第三号□、同第四号□(特殊の構造方法 時刻歴応答解析、免 <table-cell-rows> 等の合、耐震等級、耐風等級、耐風等級、耐風等級、配力法認定が必要となる □ 評定書 □ 評価報告書 □ 品確法第58条(耐震等級、耐風等級、耐積雪等級に関する特別評価方法認定 構造②-Aのみに配入しる。 本む</table-cell-rows>	付養書等級のいず 確法上の特別評			

: 構造②-D1~D5 ■ 建築基準法に基づく、耐震等級1の場合又は告示免震計算による場合

■ コンクリート ■ 認定書 ■ 性能評価書 □ 評価報告書 [ <mark>高強度せん断補強筋 KSS785</mark>

■ 認定書 □ 性能評価書 □ 評価報告書

■ 建築基準法第37条第2号(建築材料認定)

■ 確認済証

■ その他

告示免震計算の場合

該当する認定書などを添付する

を使用する。

材料認定等

### 設計内容説明書(兼自己評価書) 案件略称: Δ 虎ノ門マンション

- 1. 構造の安定に関すること(2) (建築確認済みで等級1などの場合)
- (3) 等級の確認(建築確認済みで等級1などの場合)

		-0-1-1-1		申請者記入	概要書·計算書		評価者記入欄
性能表示事項	自己評価等級		設計内容説明欄 兼チェック欄	特記事項 ·備考欄	図面番号 関連設計図書	確認	備考
1-1 耐震等級	□ 等級3	適用倍率	□ 倍率 1.5 以上				
(構造躯体の倒壊等防止)	□ 等級2		□ 倍率 1.25 以上		構造計算書		
□ 評価対象外(免震建築物)	■ 等級1		■ 倍率 1.0 以上				
1-2 耐震等級	□ 等級3	適用倍率	□ 倍率 1.5 以上				
(構造躯体の損傷防止)	□ 等級2		□ 倍率 1.25 以上		構造計算書		
□ 評価対象外(免震建築物)	■ 等級1		■ 倍率 1.0 以上				
1-3 その他	口 免震建築物	免震建築物の場合	□ 平成12年建設省告示第2009号第1第3号				
(地震に対する構造躯体の倒壊等防止	■ その他	の告示	□ 一 (四号建築物)				
及び損傷防止)			□ 二 (建基法20条第二号又は三号に掲げる建築物)				
			□ 三(時刻暦応答解析を行い大臣認定取得)				
			□ その他[				
		維持管理	□ 維持管理計画	、免刑等の高度で  風等級、耐積雪	・計算の場 等級のいず		
			□ 敷地管理計画 れかが2以上の場	り合は、品確法上 要となる	の特別評		
1-4 耐風等級	■ 等級2	適用倍率	■ 倍率 1.2 以上				
(構造躯体の倒壊等防止及び損傷防止)	□ 等級 1		□ 倍率 1.O 以上		特別評価方法大臣認定書		
1-5 耐積雪等級	□ 等級2	適用倍率	□ 倍率 1.2 以上 ]				
(構造躯体の倒壊等防止及び損傷防止)	□ 等級 1		□ 倍率 1.0 以上 多言区域のみに	適用			
	■ 区域外		● 多雪区域外				

注)「1-2耐震等級」「1-4耐風等級」「1-5耐積雪等級」の評価項目を選択しない場合は、申請者記入特記事項欄に「選択無し」と記入願います。

### 設計内容説明書 (兼自己評価書)

案件略称: △ 虎ノ門マンション

1. 構造の安定に関すること(3)(地盤・基礎)

1-6 地盤又は杭の許容支持力等及びその設定方法 評価方法 ■ 評価方法基準による □ その他 [

1-7 基礎の構造方法及び形式等 評価方法 ■ 評価方法基準による □ その他 [ (6)(7)基礎の構造方法及び形式等 / 地盤又は杭の許容支持力等及びその設定方法 評価者記入欄 申請者記入 概要書·計算書 性能表示事項 設計内容説明欄 兼チェック欄 特記事項 図面番号 備考 ·備考欄 関連設計図書 直接基礎 構造方法 □ 鉄筋コンクリート造 □ その他 形式 □ 独立基礎 □ 布基礎 追加記入です □ ベタ基礎 □ その他 地盤の許容応力度 KN/m² 杭状改良地盤基礎 杭状改良地盤の許容支持力度 KN/m² KN/本 杭状改良地盤の許容支持力 支持層を記入 地盤改良方法 杭基礎 支持方法 [ GL-40以深の砂礫層を支持層とする 杭種 「支持杭(場所打ち杭) 工法 「アースドリル拡底工法(HND工法) 杭径(最小~最大) 最小径 150 ] cm ~ 最大径 [ ] cm 場所打杭、深礎は拡底径~拡頭径も表示 最小拡頭径 [ ] cm ~ 最大拡頭径[ ] cm 1種類の場 拡底径は設計径を表示 最小拡底径 [ **260** ] cm ~ 最大拡底径 [ 410 ] cm 合は最小 杭長(最小~最大)小数点以下切捨て 最小長[ **43** ] m のみ記述 最大長 [ 53 ] m 杭の許容支持力(最小~最大) 最小 [ 11928 ] KN/本 最大 [ 30812 ] KN/本 設定方法 ■ 標準貫入試験 □ 平板載荷試験 ■ 室内土質試験 (設定の根拠となった地盤調査方法、地盤改良の方法等) □ PS検層 口 孔内水平載荷試験 □ 地盤改良 [ 2020年4月以降は「PS検層」、「孔内水平載荷試 □ その他 [ 験」に■を記入しないで下さい

評価方法: ■ 評価方法基準による □ その他 [

### 設計内容説明書 (兼自己評価書)

案件略称: <mark>Δ 虎ノ門マンション</mark>

# 3. 劣化の軽減に関すること(1)(住棟評価用)

3-1 劣化対策等級(構造躯体等)

(1) 鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造

性能表示事項 自己評 等級		設計内容説明	欄 兼チェック	桶		申請者記入 特記事項 ・備考欄	概要書·計算書 図面番号 評価関連図書	評価者記入欄 備 考
3-1	級3 ■ ①項~⑤項の全で	での頂日に滴合				• 佣 5 愽	計画関連図書	高
· ·化対策等級								
構造躯体等) □ 等		の項目に廻口						
).セメントの種類	■ JISR5210 ポ	ルトランドわメント						
7.ピハントの怪殺		ルーラン   ピハシ   中庸熱 ■ 低熱 □ その(t	h					
		ティアッシュセメント:混合物を		・セメントの重量とし	で用いる		設計図 S-1	
		グイアックュセスクト・混合物。 炉セメント:混合物の10分の3		· ——				
水セメント比と	0010211 60	コンクリート		普通 軽量	普通 軽量			
かぶり厚さ	水セメント比	等級3			55 50		設計図 S-1	
330JAC	W/C(%)	等級2		55 0 50		改計区 5-1		
		部位		最小かぶり				
		耐力壁以外の壁又は床	屋内	2	3			
	直接土に接しない	100万主以外の主人は外	屋外	3 (2)	4 (3)			
	部分のかぶり厚さ	耐力壁、柱、はり又は壁ばり	屋内	3	4			
	いったいのでは	1950年、日、1850人の主はり	屋外	4 (3)	5 (4)			
	直接土に接する	壁、柱、床、はり、基礎ばり又は布			5		設計図 S-1	
	部分のかぶり厚さ	基礎(布基礎の立上り部分を除		6	7		HAMIET O	
	BP/3 * 5/3 13/ 5/4 C	中庸熱・低熱ポルトランドセ		適用可	適用外			
				<ul><li>( ) 内の数値は有効</li></ul>				
	ロットナメントトナが部位に	こより異なる場合、部位とW/Ca	5 服示 「					
		は、最小かぶり厚さに施工誤差		を考慮して設定				
		こあたり、設計かぶり厚さを考慮				計算書 Ⅲ章		
コンクリートの品質等			, o cv. o,				11711	П
		・ 強度が33N/mm <sup>2</sup> 未満の場合 ス	クランプが18cr	mNZ				
		強度が33N/mm <sup>2</sup> 以上の場合 ス					設計図 S-1	
-> . Au 1. 36 min /-	- フニンプがつ	1cmを超える場合は大臣認定コ					<b>車</b> 論度¬ <b>`</b>	ノクリートの場合、認定書、性能
コンクリート強度に JASS5(2009)のF	- m ■ 単位水量が18	85Kg/m³以下						プラント決定後、速やかに提出す
		~6%(日最低気温の平滑平年	値の年間極値が	「0℃を下回る地域)			ا العاد ا	75 1 01/2 201 22 1 2 1 2 2 2 2 2
	□ コンクリート中急	含水率を高くしない措置その他有	効な措置	[	]			
	■ 認定コンクリート	<ul><li>・設計基準強度 ・単位</li></ul>	k量 • 空気量	・ スランプ あるいはスラ		認定書、性能評価書		
0.施工計画	■ 認定コンクリート	<ul><li>において、等級3、等級2の場</li></ul>	合					
	■ 適切な施工計	画を定める指定					京改在1、201 上版工社画書	
	■ 適切な品質管	理計画を定める指定					高強度コンクリート施工計画書	
	■ 不具合の確認	と対処方法を定める指定						
	■ 密実に充填するだ	こめの打込み及び締め固めの方法	もの指定					
	<ul><li>使用する締め</li></ul>	国め機器の種類と使用方法					宣选帝一、	マクリートの場合 施工計画書たず
	<ul><li>JASS5とは別</li></ul>	の指定方法 [			]		ラント決定	ンクリートの場合、施工計画書をプ 2後、施工前に提出する
	■ 打ち継ぎ部の処理	里方法の指定						
	・打継ぎ部の位置	置 ・打継ぎ部の形状 ・コンク!	ノートの打継ぎ	面の処置			設計図 S-3	
	<ul><li>JASS5とは別</li></ul>	の指定方法 [			]			
	■ 養生方法の指定						JASS5/C	準拠する場合には、対応す
	・ 湿潤養生の方法	去 ・養生期間 ・養生温度の配慮	意					を図面に記載する
	<ul><li>JASS5とは別</li></ul>	の指定方法 [				(13.11)		

### 3. 劣化の軽減に関すること(2) 案件略称: Δ 虎ノ門マンション

#### (1)鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造 続き

性能表示事項 自己評価 等級	設計内容説明欄 兼チェック欄	申請者記入 特記事項 • 備考欄	概要書·計算書 図面番号 評価関連図書	評価者記入欄 確 備 考	
⑤.その他の構造部材等	■ 構造躯体等が令3章耐久性等関係規定のうちの下記の規定に適合				
	・構造部材(令第37条) ・コンクリートの材料(令第72条1,3号)				
	・コンクリートの強度(令第74条3項)				
	・コンクリートの養生(令第75条) ・鉄骨のかぶり厚さ(令第79条の3)				
	口 特殊な工法によるものは、建設大臣が定めた技術的基準のうちの劣化規定に従う				
	□ 壁式鉄筋コンクリート造:平13国交告第1026号に適合				
	ロプレストレストコンクリート造:昭58建告第1320号に適合				
	ロ 壁式ラーメン鉄筋コンクリート造:平13国交告第1025号に適合				
	□ その他 [ ]				

#### (2)鉄骨造

性能表示事項	自己評価等級	設計内容説明欄 兼チェック欄	申請者記入 特記事項 • 備考欄	概要書·計算書 図面番号 評価関連図書		評価者記入欄 備 考
3-1	□ 等級3	□ ①項~④項の全ての項目に適合、但し*の項目は除外				
劣化対策等級	□ 等級2	□ ①項~④項の全ての項目に適合、但し**の項目は除外				
(構造躯体等)	□ 等級1	□ ④ 項のみに適合				
①.構造躯体		<ul> <li>□ 柱、梁、筋かいの防錆措置は評価方法基準 3-1(3) □ ①a の基準に適合**</li> <li>□ 柱、梁、筋かいの防錆措置は評価方法基準 3-1(3) □ ②a の基準に適合*</li> <li>□ 柱、梁、筋かい以外の部分は鉛系さび止めペイント塗り回数2以上、又は同等の防錆措置ただし、等級3の場合は厚さ12mm(等級2の場合は厚さ9mm)以上の鋼材については、この限りでない</li> </ul>				
②.床下		口 床下は評価方法基準 3-1(3)イ①f の基準に適合				
③.小屋裏		□ 小屋裏は評価方法基準 3-1(3)イ①g の基準に適合				
④.構造部材等		□ 構造躯体等が構造部材の耐久(令第37条)に適合 □ 構造方法に関する補足:特殊な工法によるものは、国土交通大臣が定めた技術的基準のうちの 劣化規定に従う □ [				

### 3.1.5 記入例(4) 鉄筋コンクリート造 14階建て共同住宅(免震建築物)

#### 〇建物概要

建設地 愛知県名古屋市

規模等 ・建物高さ 41.29m

・階数 地上14階、地下1階、塔屋1階

延べ面積 6,140m²
 ・住戸数 69戸

構造等・鉄筋コンクリート造

X方向 ラーメン構造

・Y方向 耐力壁付ラーメン構造

・基礎 杭基礎(場所打ちコンクリート杭)

#### 〇構造計算の手法

• 告示免震計算

#### 〇性能表示事項

1-1 耐震等級(倒壊等) 対象外 1-2 耐震等級(損傷) 対象外

1-3 その他(免震構造) 免震建築物

1-4 耐風等級等級 21-5 耐積雪等級区域外3-1 劣化対策等級等級 3

設計内容	説明書 (兼自己評価書	)				
1. 構造	の安定に関すること	: (1) (概要)(住棟評価用)		- 注1.申請者は <b></b> 部分	ムのひた司	<b>1</b> オス
	耐震等級(構造躯体の倒壊等防」		1	注1. 中間有は L		
			J			
	耐震等級(構造躯体の損傷防止)		J	2. 申請者記入特記事項・備考欄		
	その他(地震に対する構造躯体の倒壊		J	3. 概要書·計算書、図面番号、		
1−4 ∄	耐風等級 (構造躯体の倒壊等防」	上及び損傷防止) 評価方法:■ 評価方法基準による □ その他 [	]	ための注記欄で、いずれた	ハーつの記え	入のみで可。
1−5 ∄	耐積雪等級(構造躯体の倒壊等[	防止及び損傷防止) 評価方法:■評価方法基準による □ その他 [	]	4. 同一敷地内に複数の棟が存っ	する場合、	類似内容であれば
(1)構造設	計概要			本書類は一つとし、違いは	記号等を用	いて区別する。
			申請者記入	概要書·計算書		評価者記入欄
	確認事項	設計内容説明欄 兼チェック欄	特記事項 ·備考欄	図面番号 関連設計図書	確	備考
構造概要	規模等	・建物高さ [ ≒41 m] 階数:地上 [ 14 階] 地下 [ 1 階]	畑 5118			
ZMS	ا الله	- 研べ面積 [ =6140 ㎡]				
	耐震、免震等	□ 両部 建築 独加 □ 両計 配子 ない かん は 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一				
	構造等	・構造種別 [鉄筋コンクリート造		構造計算概要書 P.1		
	神色女	・構造形式       Xまたは桁行方向       [・純ラーメン構造]		<b>特起们并恢复自</b> 1.1		
		Yまたは張間方向 [ <del>純ラーメン構造</del> ]				
		・基礎構造				
構造計算	 構造計算の手法					
時心	特定可昇の子仏	□ 保有水平耐力計算				
		□ 限界耐力計算				
		■ 告示免震計算		┃ 構造計算概要書 P.2~4		
		□ 許容応力度等計算		特理可养物女音   .2 * 4		
		□ その他 [ 今第82条各号及び令第82条の4に定めるところによる構造計算 ]				
	  構造計算の考え方	・構造計算に際し採用したモデル化、解析手法、ルート判定等に関する、設計者の考え方				
材料仕様	コンクリート	・ 強度         「Fc42				
(最大のもの)	鉄筋	• 主筋材質				
(100/00/00/00/	鉄骨	・鉄骨材質     「		設計図 S-1		
	その他	「高強度せん断補強筋 KSS785 ]				
(O) \\ \\ \	3 - 10	[ KOOTOO KOOTOO KAN				
(2)適用対	家の唯認		申請者記入	概要書·計算書		評価者記入欄
	確認事項	設計内容説明欄 兼チェック欄	特記事項		確	
			·備考欄	関連設計図書	割	備考
等ち高		<ul><li>□ 31m以下</li><li>■ 31m超~45m以下</li><li>□ 45m超~60m以下</li><li>□ 60m超</li></ul>				
		□ 建築基準法第20条第三号イ(ルート1)				
構造認定等		□ 建築基準法第20条第一号(超高層建築物の構造方法)   時刻歴応答解析、免震等の高度な計算の場				
注)構造②のシー	ートについて	□ 部に書 □ 性能評価者 □ 評価報告者 耐量等級 耐量等級 耐達要等級のいずれ				
<ul><li>右の項のいづね</li></ul>	1かに該当する場合には、	建築基準法第20余第二号ロ、同第二号ロ、同第四号ロ 2以上の場合は、品確法上の特別評価方法				
	用し、認定書や確認済	□ 認定書 □ 性能評価書 □ 評価報告書			_	
証等を添付する						
	2にも該当しない場合	□ 評定書 □ 評価報告書			_	
		■ 品確法第58条(耐震等級、耐風等級、耐積雪等級に関する特別評価方法認定 左欄の注)により構造②				
限界耐力計算の対		■ 特別評価方法認定書 ■ 試験結果証明書 J-A、②-D5に記入し、構				
告示免需計算の関	場合 : 構造②-D1~D5	■ 建築其準法に其づく 耐雲等級1の場合又は告示免雲計算による場合			11 1	

を使用する。

材料認定等

該当する認定書などを添付する

■ 確認済証

■ 建築基準法第37条第2号(建築材料認定)

■ その他 [ 高強度せん断補強筋 KSS785

■ コンクリート ■ 認定書 ■ 性能評価書 □ 評価報告書

■ 認定書 ■ 性能評価書 □ 評価報告書

### 設計内容説明書 (兼自己評価書) 案件略称: ☆ 虎ノ門マンション

- 1. 構造の安定に関すること(2) (建築確認済みで等級1などの場合)
- (3) 等級の確認(建築確認済みで等級1などの場合)

性能表示事項	自己評価等級		設計内容説明欄 兼チェック欄	申請者記入 特記事項 ·備考欄	概要書·計算書 図面番号 関連設計図書	評価者記入欄 備 考
1-1 耐震等級	□ 等級3	適用倍率	□ 倍率 1.5 以上 \			
(構造躯体の倒壊等防止)	□ 等級2		□ 倍率 1.25 以上	-t + 00 = -+F		
■ 評価対象外(免震建築物)	□ 等級 1		□ 倍率 1.0 以上 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ても、1−3の表示を「- 別評価方法認定によ F級の評価を行うこと	9. 9.	
1-2 耐震等級	□ 等級3	適用倍率	□ 倍率 1.5 以上 1-1及び1-2耐震等 可能	「級の評価を行うこと	t -	
(構造躯体の損傷防止)	□ 等級2		□ 倍率 1.25 以上		7	
■ 評価対象外(免震建築物)	□ 等級 1		□ 倍率 1.0 以上 丿			
1-3 その他	■ 免震建築物	免震建築物の場合	■ 平成12年建設省告示第2009号第1第3号			
(地震に対する構造躯体の倒壊等防止	□ その他	の告示	□ 一 (四号建築物)		. —	
及び損傷防止)			□ 二(建基法20条第二号又は三号に掲げる建築物	(m)	大臣認定書 性能評価書	
			■ 三(時刻暦応答解析を行い大臣認定取得)		127611	
			□ その他[	]		
		維持管理	■ 維持管理計画		性能評価書	
			■ 敷地管理計画		設計図 S-35	
1-4 耐風等級	■ 等級2	適用倍率	■ 倍率 1.2 以上 免護建築物の場合 級のいずれかが2	き、耐風等級、耐積電 以上の場合は、品硝	等	
(構造躯体の倒壊等防止及び損傷防止)	□ 等級 1			法認定が必要となる	特別評価方法大臣認定書	
1-5 耐積雪等級	□ 等級2	適用倍率	□ 倍率 1.2 以上 ]			
(構造躯体の倒壊等防止及び損傷防止)	□ 等級 1		□ 倍率 1.0 以上 多雪区域のみに	<b>直</b> 用		
	■区域外		● 多雪区域外			

注)「1-2耐震等級」「1-4耐風等級」「1-5耐積雪等級」の評価項目を選択しない場合は、申請者記入特記事項欄に「選択無し」と記入願います。

### 

1. 構造の安定に関すること(2) (免震建築物) \*建築確認済の場合でも構造②-D5は記入要

(3)維持管理等に関する事項の評価(告示免震計算)

		四(古亦光彦	2019+7		申請者記入	概要書·計算書	1	評価者記入欄
性能表示事項	確認項			内容説明欄兼チェック欄	特記事項 ·備考欄	図面番号 関連設計図書	確認	備考
維持管理に関する計画	免震材料等点検計	画	■ 定期点検、定期点検、臨時点検および	が詳細点検として以下の項目が記載されている		5.4維持管理概要		
	時期また	には頻度	■ 点検時期が各部位ごとに設定されて	้เกอ		5.4.3点検項目、調査方法、管理値表		
	項目		■ 下記の項目が記載されている					
			免農材料	[ 積層ゴム [ オイルダンパー [	]			
			□ 耐火被覆 ■ 配管設備 ■ 電気配線 ■ 避雷針	[ <mark>可撓継手部</mark> [ 変位吸収部	]			
	方法		<ul><li>■ 妊菌町</li><li>□ アース</li><li>□</li><li>■ 目視または計測方法が記載されて</li></ul>		]			
			いる		J	同上		
	箇所		■ 点検箇所数が記載されている		J	同上		
	管理値		■ 管理値が記載されている		]	同上		
	管理体制計画		■ 維持管理体制の詳細を定めている 「免震建物点検技術者」の立場と役	割が明記されている。		5.4維持管理概要		
	•							維持管理計画を評価確認
敷地の管理に関する 計画	建築物周囲の点検計画		■ 定期点検、臨時点検および詳細点検	として以下の項目が記載されている		5.4維持管理概要		
	時期また	には頻度	■ 点検時期が各部位ごとに設定されて	้กร		5.4.3点検項目、調査方法、管理値表		
	項目 方法		<ul> <li>▼記の項目が記載されている</li> <li>□ クリアランス</li> <li>■ 建物位置標識</li> <li>■ 建物位置</li> <li>□ 不同沈下</li> <li>■ 可燃物</li> <li>□ 排水状況</li> <li>□ 目視または計測方法が記載されて</li> </ul>		]	同上		
			いる		]	同上		
	箇所		■ 点検箇所数が記載されている	L	J	同上		
	管理値		■ 管理値が記載されている		]	同上		
	管理体制計画		■ 維持管理体制の詳細を定めている 「免震建物点検技術者」の立場と役	割が明記されている。		5.4維持管理概要		**/
			L				Ш	敷地管理計画を評価確認

### 設計内容説明書(兼自己評価書)

案件略称: ☆ 虎ノ門マンション

1. 構造の安定に関すること(3)(地盤・基礎)

1-6 地盤又は杭の許容支持力等及びその設定方法

評価方法 ■ 評価方法基準による □ その他 [

1-7 基礎の構造方法及び形式等

評価方法 ■ 評価方法基準による □ その他 [

(6)(7)基礎の構	造方法及び形式等/地盤又は杭の許容	支持力等及びその設定方法			
		申請者記入	概要書·計算書		評価者記入欄
	性能表示事項	設計内容説明欄 兼チェック欄 特記事項 ・備考欄	図面番号 関連設計図書	確認	備考
直接基礎	構造方法	鉄筋コンクリート造			
		□ その他 [ ] ]			
	形式	□ 独立基礎			
		□ 布基礎			
	<mark>追加記入です</mark>	□ ベタ基礎			
		□ その他 [ ] ]			
	地盤の許容応力度	[ ] KN/m²			
杭状改良地盤基礎		[ KN/m²			
	杭状改良地盤の許容支持力	[ KN/本			
	地盤改良方法	支持方法「G」−40以際の砂礫屋を支持屋とする ▼支持層を記入			
杭基礎	杭種	文語の意味を表別権と大利権と			
		杭種 [ 支持杭(場所打ち杭) ]			
_		工法 [アースドリル拡底工法(HND工法) ]			
	杭径(最小~最大)	最小径 [ 150 ] cm ~ 最大径 [ 250 ] cm			
	場所打杭、深礎は拡底径~拡頭径も表示	最小拡頭径 [ ] cm ~ 最大拡頭径 [ ] cm			
1種類の場	拡底径は設計径を表示	最小拡底径 [ 260 ] cm ~ 最大拡底径 [ 410 ] cm			
合は最小	杭長(最小〜最大)小数点以下切捨て	最小長 [ 43 ] m			
のみ記入		最大長 [ 53 ] m			
	杭の許容支持力(最小~最大)	最小 [ 11928 ] KN/本			
=0		最大 [ 30812 ] KN/本			
設定方法	+ 116 00C===+++++	■ 標準貫入試験 □ 平板載荷試験 ■ 室内土質試験			
(設定の根拠とな	った地盤調査方法、地盤改良の方法等)	□ PS検層 □ 孔内水平載荷試験			
		□ 地盤改良 [ ] ]			
	1050-1-1/18/1-10:1 CIS/MIT. 181-1/1/ 1 WIN IN	□ その他 [ ] ] ]			
[	険」に置を記入しないで下さい	L J			
		L			

評価方法: ■ 評価方法基準による □ その他 [

### 設計内容説明書 (兼自己評価書) 案件略称: ☆ 虎ノ門マンション

# 3. 劣化の軽減に関すること(1)(住棟評価用)

3-1 劣化対策等級(構造躯体等)

(1)鉄筋コンクリート	・造及び鉄骨鉄筋コン	/クリート造								
	設計内容説明欄 兼チェック欄				申請者記入 特記事項 ・備考欄	概要書·計算書 図面番号 評価関連図書		評価者記入欄		
性能表示事項等級								確認	備考	
3-1 ■ 等級3	3 ■ ①項~⑤項の全て	■ ①項~⑤項の全ての項目に適合								
劣化対策等級 □ 等級2	2 □ ①項~⑤項の全て	の項目に適合								
(構造躯体等) □ 等級1	□ ⑤項のみに適合									
①.セメントの種類		■ JISR5210 ポルトランドセメント								
		中庸熱 ■ 低熱 □ その他	_				設計図 S-1			
		ライアッシュセメント:混合物を			-					
@ -1/ b - / > .   b   b   b	□ JISR5211 高炉	<u> ラセメント:混合物の10分の3</u>								
②水セメント比と	-1.1- (2.1.1)	コンクリート 等級3	•	普通 軽量 普	通 軽量		₹ 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			
かぶり厚さ	水セメント比 W/C(%)	等級2		55 50 50			設計図 S-1			
	VV/ O (70/	部位		最小かぶり厚さ						
		- 耐力壁以外の壁又は床	屋内	2 取ががらり	3					
	直接土に接しない	間万型以外の至文は休	屋外	3 (2)	4 (3)					
	部分のかぶり厚さ	耐力壁、柱、はり又は壁ばり	屋内	3	4					
	BP309/3/13/9/JFC		屋外	4 (3)	5 (4)					
	直接土に接する	壁、柱、床、はり、基礎ばり又は布			5		】 設計図 S-1			
	部分のかぶり厚さ	基礎(布基礎の立上り部分を除	<,)	6	7		<b>2</b> 1			
		中庸熱・低熱ポルトランドセ		適用可	適用外					
		( )内の数値は有効な仕上のある場合								
	□ 水セメント比が部位に	より異なる場合、部位とW/Cを	· 明示 [		]					
	■ 設計かぶり厚さは	は、最小かぶり厚さに施工誤差(	(原則1 c m) を	き慮して設定						
	■ 部材の断面算定に	あたり、設計かぶり厚さを考慮	<b>ましている。</b>				計算書 Ⅲ章			
③.コンクリートの品質等	■ JIS規格コンクリー	■ JIS規格コンクリート								
		強度が33N/mm <sup>2</sup> 未満の場合 ス								
	■ コンクリート強度が33N/mm <sup>2</sup> 以上の場合 スランプが21cm以下 ■ スランプが21cmを超える場合は大臣認定コンクリート使用					設計図 S-1	š-1			
コンクリート強度は JASS5(2009)のFm						高強度コンクリー		-トの場合、認定書、性能評		
UA333(2009)07FIII	■ 単位水量が185Kg/m <sup>3</sup> 以下					価書を業者決定後、速やかに扱				
	□ 空気量が4%~6%(日最低気温の平滑平年値の年間極値が0°を下回る地域)									
	□ コンクリート中含水率を高くしない措置その他有効な措置 [ □ ] ■ 認定コンクリート ・設計基準強度 ・単位水量 ・空気量 ・ステンプあるいはスランプフロー ・材料分離抵抗の試験方法、試験時期 ・回数等を定める規定					認定書、性能評価書	書			
<ul><li>④.施工計画</li></ul>	■ 認定コンクリート	において、等級3、等級2の場		DX45/ED/OW/E					П	
⊕.ne⊥ar <b>w</b>	■適切な施工計画									
	■ 適切な品質管理計画を定める指定					高強度コンクリート施工計画書	計画書			
	■ 不具合の確認と対処方法を定める指定									
	■ 密実に充填するための打込み及び締め固めの方法の指定									
	・使用する締め固め機器の種類と使用方法									
	JASS5とは別の指定方法 [						高強度コンク	高強度コンクリー	リートの場合、施工計画 後、施工前に提出する	
	■ 打ち継ぎ部の処理方法の指定								爬上	лит~ти€шу бо
	・打継ぎ部の位置 ・打継ぎ部の形状 ・コンクリートの打継ぎ面の処置						設計図 S-3			
	・JASS5とは別の指定方法 []									
1	■ 養生方法の指定					JASS5に準拠する場合には、対				
	・湿潤養生の方法 ・養生期間 ・養生温度の配慮							る節番号を図面に		
1	<ul><li>JASS5とは別の</li></ul>	の指定方法 [			]				П	

#### (1)鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造 続き

		申請者記入 特記事項 • 備考欄	概要書·計算書 図面番号 評価関連図書		評価者記入欄
性能表示事項 等級	設計内容説明欄 兼チェック欄			確認	備考
⑤.その他の構造部材等	■ 構造躯体等が令3章耐久性等関係規定のうちの下記の規定に適合				
	・構造部材(令第37条) ・コンクリートの材料(令第72条1,3号)				
	・コンクリートの強度(令第74条3項)				
	・コンクリートの養生(令第75条) ・鉄骨のかぶり厚さ(令第79条の3)				
	□ 特殊な工法によるものは、建設大臣が定めた技術的基準のうちの劣化規定に従う				
	□ 壁式鉄筋コンクリート造:平13国交告第1026号に適合				
	ロ プレストレストコンクリート造:昭58建告第1320号に適合				
	□ 壁式ラーメン鉄筋コンクリート造:平13国交告第1025号に適合				
	□ その他 [ ]				

#### (2)鉄骨造

	自己評価		申請者記入 特記事項	概要書·計算書		評価者記入欄
性能表示事項等級		設計内容説明欄 兼チェック欄		図面番号 評価関連図書		備考
3-1	□ 等級3	□ ①項~④項の全ての項目に適合、但し*の項目は除外				
劣化対策等級	□ 等級2	□ ①項~④項の全ての項目に適合、但し**の項目は除外				
(構造躯体等)	□ 等級1	□ ④項のみに適合				
①.構造躯体		口 柱、梁、筋かいの防錆措置は評価方法基準 3-1(3)口①a の基準に適合**				
		□ 柱、梁、筋かいの防錆措置は評価方法基準 3-1(3)□②a の基準に適合*				
		口 柱、梁、筋かい以外の部分は鉛系さび止めペイント塗り回数2以上、又は同等の防錆措置				
		ただし、等級3の場合は厚さ12mm(等級2の場合は厚さ9mm)以上の鋼材については、 この限りでない				
②.床下		口 床下は評価方法基準 3-1(3)イ①f の基準に適合				
③.小屋裏		□ 小屋裏は評価方法基準 3-1(3)イ①g の基準に適合				
④.構造部材等		□ 構造躯体等が構造部材の耐久(令第37条)に適合				
		□ 構造方法に関する補足:特殊な工法によるものは、国土交通大臣が定めた技術的基準のうちの				
		劣化規定に従う				